

# 世界トップレベル研究拠点プログラム (WPI) について

令和2年1月17日

文部科学省 研究振興局  
基礎研究振興課



文部科学省

MEXT

MINISTRY OF EDUCATION,  
CULTURE, SPORTS,  
SCIENCE AND TECHNOLOGY-JAPAN

# 1. WPIの現状

- 2007年の事業立ち上げ以来、高度に国際化された研究環境と世界トップレベルの研究水準を誇る「国際頭脳循環のハブ拠点」の形成を目指し、これまでに計13拠点を採択してきた。
- 各拠点の強みを活かした特色ある活動への支援を通じて、以下の4つの「WPIミッション」の達成に向けて取り組んできた。
  - ① 世界トップの研究水準
  - ② 融合領域への挑戦
  - ③ 国際的な研究環境
  - ④ 研究組織の改革
- その結果、世界最高水準の研究成果創出の面においても、大学等における研究システム改革の面においても、我が国を先導する数々の顕著な成果を挙げてきた（※参考資料3-3「世界トップレベル研究拠点プログラム(WPI)の成果検証について」参照）。

## 2. 中期的見通しの必要性

- 事業開始から14年目を迎えようとしているいま、WPIとしてさらなる高みを目指し、その『質』を高め、中長期的に日本及び世界の研究力をリードしていくことが求められている。国際的にvisibleな「WPI拠点群」としてのプレゼンスを示し、内外からの高まる期待に応えていくことが重要であり、現在の計13拠点の持続的な発展と、将来を見据えた新たな拠点形成支援の枠組みが求められる。
- そのためには、
  - ① 10年の補助金支援期間を終えた拠点の役割
  - ② 新規拠点採択のあり方

に関する中期的見通しを関係者間で共有し、必要な政策的手立てを時宜を逸することなく講じていくことが必要と考えている。

### 3. 今後のあり方

- 補助金支援期間を終えた「アカデミー拠点」の価値最大化方策、及び今後の新規拠点採択の方針の検討にあたっては、これまでの4ミッションに基づく事業成果、現状の立ち位置や課題を適切に踏まえていくことが必要。
- 文部科学省として、今般の事業評価を踏まえ、WPIの『質』のさらなる向上・強化に向けた新たなミッションを検討すべき時機を迎えていると考えている。これは、現行の4ミッションを踏まえつつ、将来の学問の進展に貢献し、WPIのブランディング強化にもつながるものであるべき。
- 観点として、たとえば、「学術的価値のみならず社会的価値の還元も含む、より高次の融合領域における価値創出・展開を先導していくこと」などが挙げられると考えている。

## 4. アカデミー拠点について

- 現行の補助金支援期間中の拠点に加え、今後順調に増加していくことが見込まれる「アカデミー拠点」をいかに我が国の科学技術政策上の「財産」として活かしていくかが、今後のWPIの『質』強化にとっての鍵となる。
- 「新ミッション」のもと、アカデミー拠点のポテンシャルを最大限に活かしていくための具体的方策を着実に実行に移していくことが重要。
- 引き続き、アカデミー拠点を中心として、これまでに各拠点が培ってきた研究システム改革に関する成果や知見・ノウハウ等の相乗的活用、WPI拠点以外の他大学・研究機関への成果波及を進めていく。

## 5. 新規拠点採択について

---

- 新規拠点の採択にあたっては、潜在的な申請者（拠点・ホスト機関側）が十分な時間を確保できるように、予見性のある公募形態とすることを検討している。
- 従来の4 ミッションに加え、国として今後目指していく新たなミッションの達成までを見越せるポテンシャルを備えた拠点構想を採択していく予定。